

ノーリフティンゲケア -五色・サルビアホールの一組みを通して-



兵庫県社会福祉事業団 洲本市五色健康福祉総合センター
特別養護老人ホーム 五色・サルビアホール
理学療法士（機能訓練指導員） 竹渕 直哉

施設紹介

沿革

平成3年 五色・サルビアホール開設

平成21年 洲本市より指定管理を受け、兵庫県社会福祉事業団が運営開始

入所定数

1F ユニット型 長期入所：定員 20名

2F 従来型 長期入所：定員 60名 短期入所：定員 10名

ご入所者・職員情報(R5.10.17時点)

ご入所者の平均年齢 89.3歳 ご入所者の男女比 男：女 = 1：4

職員の平均年齢 53.9歳 職員の男女比 男：女 = 12：11

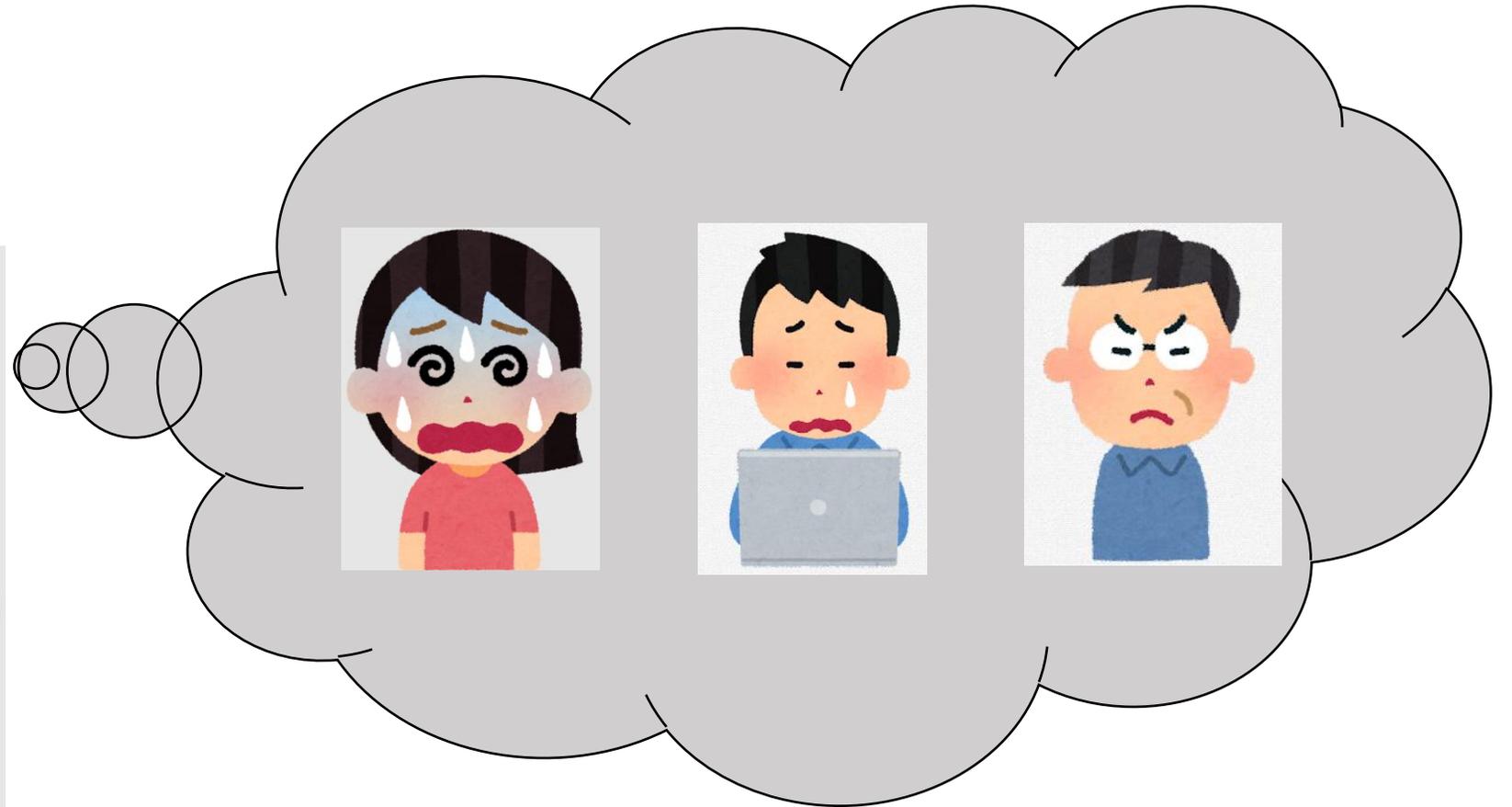
背景

◇当法人の中期経営方針にノーリフティングケア推進強化が計画

	2019	2020	2021	2022	2023
重点研修	朝陽ヶ丘荘 たじま荘 丹寿荘	あわじ荘 五色・サルビアホール	障害者施設		
指導者配置		朝陽ヶ丘荘 たじま荘 丹寿荘	あわじ荘 五色・サルビアホール	障害者施設	
ノーリフティング宣言	●万寿の家 ●くにうみの里	●朝陽ヶ丘荘 ●たじま荘 ●丹寿荘	●あわじ荘 ●五色・サルビアホール	障害者施設	

初期の状態

ノーリフティングケア推進が**低迷**



施設サービス 生産性向上ガイドライン

① 職場環境の整備

取組前



取組後



② 業務の明確化と役割分担 (1) 業務全体の流れを再構築

介護職の業務が
明確化されて
いない



業務を明確化し、
適切な役割分担を
行いケアの質を向上



② 業務の明確化と役割分担 (2) テクノロジーの活用

職員の心理的
負担が大きい



職員の心理的
負担を軽減



③ 手順書の作成

職員によって異なる
申し送り



申し送りを
標準化



④ 記録・報告様式の工夫

帳票に
何度も転記

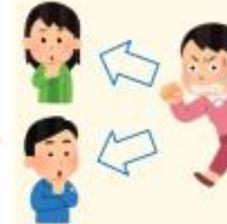


タブレット端末や
スマートフォンによる
データ入力（音声入
力含む）とデータ共有

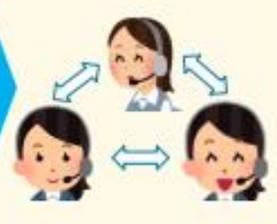


⑤ 情報共有の工夫

活動している
職員に対して
それぞれ指示



インカムを利用した
タイムリーな
情報共有



⑥ OJTの仕組みづくり

職員の教え方に
ブレがある



教育内容と
指導方法を統一



⑦ 理念・行動指針の徹底

イレギュラーな
事態が起こると
職員が自身で
判断できない



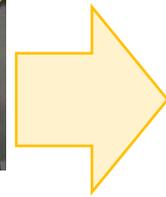
組織の理念や行動
指針に基づいた
自律的な行動



より良い職場・サービスのために今日からできること(業務改善の手引き),

https://www.mhlw.go.jp/content/12300000/Seisansei_shisetsu_Guide.pdf (アクセス日: 2023/10/10)

整理整頓



使用しない福祉用具



使用する福祉用具



不要な物は処分

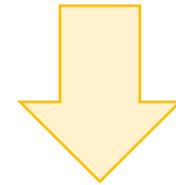
- 使用していない物品が多い
- 新しい福祉用具の置き場がない



モデル施設認定要件の担当割り振り

1 ノーリフティングケアの理解と実践	担当
1-1) 職員はノーリフティングの必要性(理念)を理解できている	ノーリフト推進委員会
1-2) 職員は抱え上げない・持ち上げない・引きずらないケア技術を習得できている	
2 職員の教育体制	担当
2-1) ノーリフティングケアの教育目標がある	研修委員会 ノーリフト推進委員会
2-2) ノーリフティングケアの組織体制を作っている・教育担当者がある	
2-3) 研修や指導者の育成計画が立てられている	
2-4) ノーリフティングケアの技術チェックをしている(職員に対して)	各リーダー、機能訓練指導員
3 環境整備	担当
3-1) 危険な場所が把握できている	支援課会議
3-2) 危険な場所に対する対策が立てられている	
3-3) 福祉用具の導入計画が立てられている・福祉用具管理者がいる	総務課
3-4) 中長期的な導入計画が立てられている	ノーリフト推進委員
4 職員の健康管理(腰痛予防)	担当
4-1) 腰痛保有率などを把握できている	安全衛生委員会
4-2) 腰痛発生リスクの高い介護内容把握、改善計画が立てられている	
4-3) 1年に1回は腰痛検査を実施している	
4-4) 腰痛予防対策における委員会等の設置がある	
5 対象者に対するケアの提供	担当
5-1) アセスメントを基にしたケアプランが決定している	ケアマネ 各利用者担当 各加算担当
5-2) ケアプランの見直しが出来ている	
5-3) ケアプランの周知徹底の方法がある	
5-4) 移乗に関する適切なケア方法がプラン通りに実施出来ている	

既存の役割と重複



割り振り

ノーリフティングケア推進チーム



総括



健康管理



教育



個別プランニング



環境

ノーリフティングケア推進委員会



目標設定

ノーリフティング宣言
NO LIFTING CARE

私たちは、力任せの介助をしない！ 持ち上げない！

目指せ！
離職率：5%以下
年間事故件数：6件以下



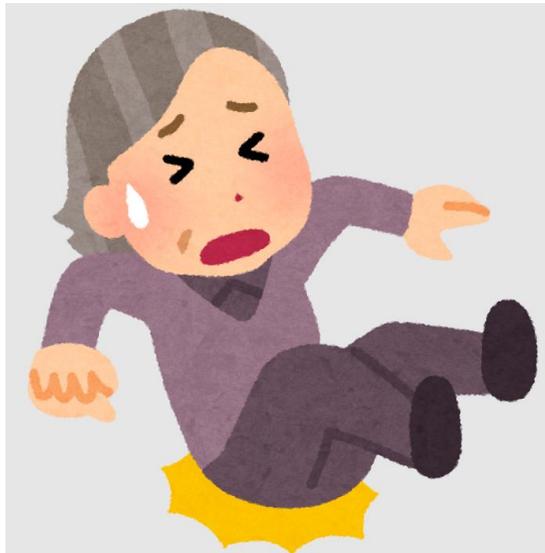
社会福祉法人兵庫県社会福祉事業団
五色・サルビアホール



年度毎に目標設定

- ・ 施設全体の統括マネジメント
- ・ 職員教育
- ・ 環境整備、福祉用具の管理
- ・ 職員の健康管理
- ・ ご利用者のケアの提供

初期の問題点

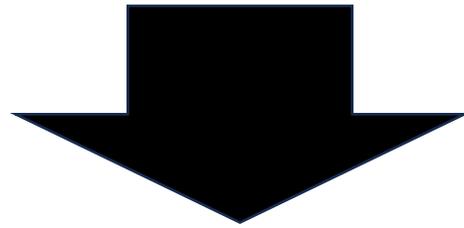


- 腰痛割合が45%
- パット交換等で前傾姿勢
- 2人介助移乗中の事故が多い

目的

介護職従事後の腰痛発症の主たる原因は前屈位での介護動作(峯松.2004)

介助ミスによる転倒等はケア側の工夫によって防ぐ事が出来る(河野.2012)



**体の使い方の修正とリフターの導入により、
腰痛割合の減少と2人介助移乗の事故防止を図る**

ノーリフトの取り組み内容と福祉用具導入の推移

令和3年

研修：ノーリフト、体の使い方、福祉用具、PDCAサイクル 等

環境調整：整理整頓、保管場所の統一、役割の明確化 等

PDCAサイクル：評価、選定、管理、実施

令和4年

サブスクリプション(以下、サブスク)

- ①福祉用具のレンタル
- ②業者による研修
- ③腰に負担のある動作を測定

まちづくり研究所
介護ロボット試用貸出

- ①福祉用具の貸出
(スタンディングリフト)
- ②業者による説明

購入

床上走行リフト(1台)

サブスクでレンタル

床上走行リフト(全ユニット)
天井走行リフト(風呂場)

購入

レンタルした用具

研修

内容：ノーリフト、身体の使い方、福祉用具、PDCAサイクル等

職員による研修

業者による研修

職員による研修



技術チェック

職員用テキスト

ノーリフト[®] ケア 実践マニュアル

日頃から行う腰痛予防対策

編集 一般社団法人ナチュラルハートフルケアネットワーク
協力 一般社団法人日本ノーリフト協会



Basic course guide

Japan Care Life Service Co., Ltd.

「ベッド」から「車いす」へ移動する場合

部分離型スリングシートをベッド上で装着する(固定)



●スリングシートの裏表、上下を正しく装着する

●レッグストラップを交差させる

ストラップをスリングバーに掛けて吊り上げる



●ベッドを吊り上げる
●2点フックの場合はヘッドストラップから掛ける
※スリングバーが対象者の顔にあたらぬように注意する

●コントローラーでリフトアップする
●完全に吊り上げる前にスリングバーを一旦停止し、各ストラップがフックに確実に掛かっていることを確認する

車いすに搬送させる(ひざ押し)



●車いすの準備をする
●レッグサポート(車いす)を外す
●外れない場合はフットプレートを取り上げる
※スリングバーが対象者の顔にあたらぬように注意する

●車いすのブレーキをかける
●踏踏骨(ひざのお口)の下を押す

スリングシートを外す



●レッグサポートからスリングシートを外す

●対象者を前かがみにさせてシートを捲き取る
●無理に引っ張らばならない

「車いす」から「ベッド」へ移動する場合

車いす上で部分離型スリングシートを装着する



●レッグサポート(車いす)を外す
●外れない場合はフットプレートを取り上げる
●スリングシートの裏表、上下を正しく装着する
●お尻にスリングシートを差し込む

ストラップをスリングバーに掛けて吊り上げる



●レッグサポートを大腿下に通す
●レッグストラップを交差させる

●車いすのブレーキを解除
●2点フックの場合はヘッドストラップから掛ける
※スリングバーが対象者の顔にあたらぬように注意する

ベッドに下す



●コントローラーでリフトアップする
●完全に吊り上げる前にスリングバーを一旦停止し、各ストラップがフックに確実に掛かっていることを確認する

スリングシートを外す

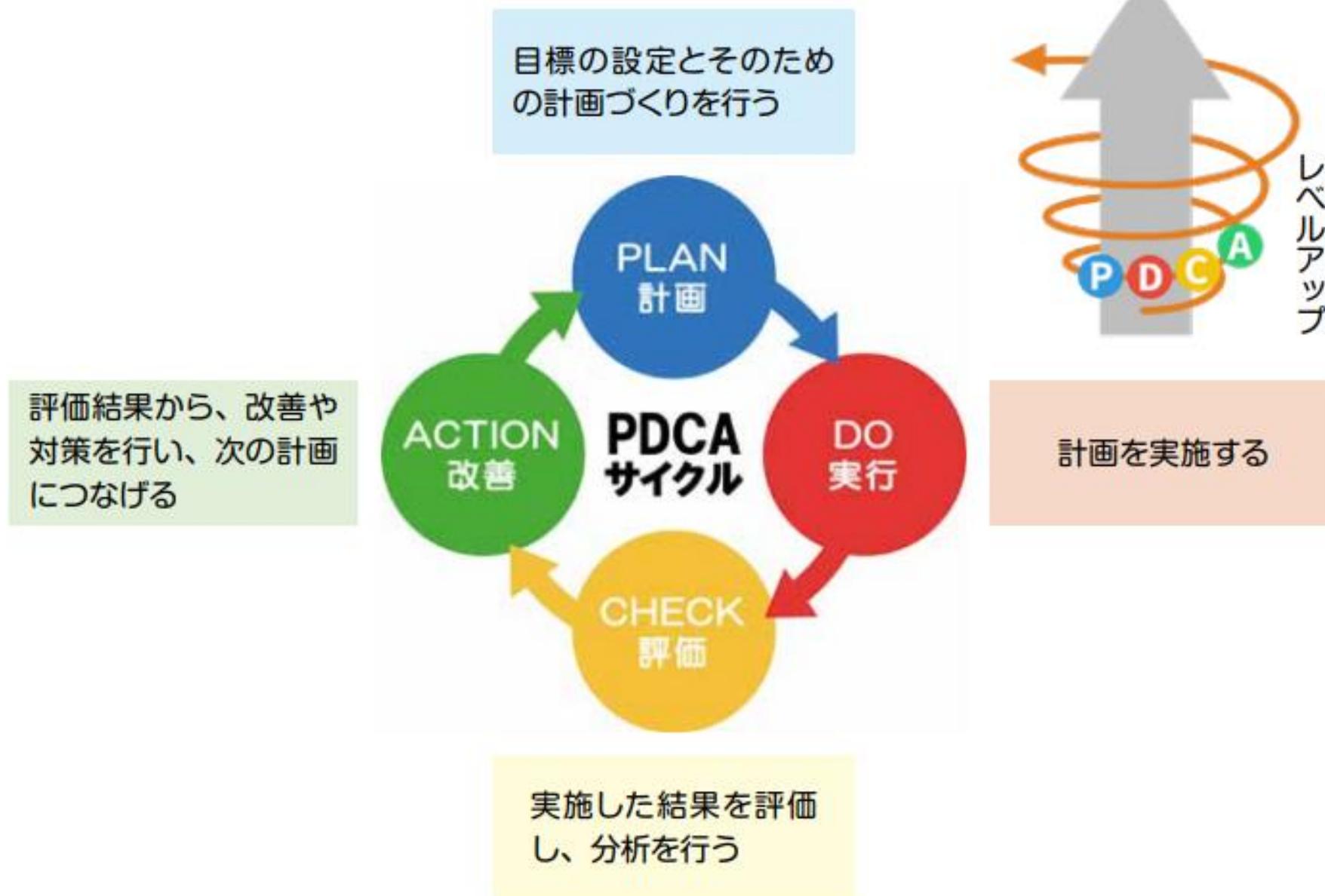


●ベッドのセンターに下す
●ベッドの足を平らに倒す
●側臥位にする

●体位交換でスリングシートを外す

- 重大事故に繋がらない範囲
- 現場確認と個別練習

生産性向上のためのPDCAサイクル



CHECK(評価)：入居者の起居動作を評価

個別機能訓練加算

- 生活機能チェックシート(状況を改変)

←	項目←	レベル←	課題	状況・生活課題←
起居動作←	寝返り←	・自立 ・見守り← ・一部介助 ・全介助←	有・ 無←	《寝返り》← 柵を掴む、お尻上げ、ベッド上移動←
	起き上がり←	・自立 ・見守り← ・一部介助 ・全介助←	有・ 無←	《起き上がり》← 上肢支持、足を下ろす←
	座位←	・自立 ・見守り← ・一部介助 ・全介助←	有・ 無←	《端座位：背もたれなしの状態》← 上肢支持、座位保持、左右体重移動←
	立ち上がり←	・自立 ・見守り← ・一部介助 ・全介助←	有・ 無←	《立ち上がり》← 体幹前傾、上肢支持、足を引く←
	立位←	・自立 ・見守り← ・一部介助 ・全介助←	有・ 無←	《立位》← 足の接地、膝折れ←

ACTION(改善)：福祉用具を選定

移乗用具の決め方

該当しない場合は人力での介助も検討

注意点

- ・利用者が好む人や時間帯、服薬状況等を確認し配慮する
- ・言葉かけや手の位置、移乗の方向等を統一
- ・安全第一を心がける(人力での介助方法を参照)

※骨折等の対応時

臥位移乗

ロールボード 移乗機能付き ストレッチャー

- ・座位保持×
- ・寝返り×
- ・体幹前傾×
- ・二人介助必要

リフト移乗

リフター

- ・座位保持×
- ・寝返り△～○

+スプレッダー 延長ストラップ

- ・体幹前傾×～△

座位移乗

スライディングボード

- ・座位保持△～○
- ・左右体重移動△～○
- ・体幹前傾△～○

+スライディングシート

- ・下衣無しの時
(風呂場やトイレ)

立位移乗

・全て座位保持○

L字バー、たちあっぷぷ

- ・上肢支持○
- ・膝折れ無
- ・方向転換△～○

ひざたち

- ・上肢支持○
- ・膝折れ時々有～有
- ・方向転換△
- ・体幹前傾○

回転台

- ・上肢支持△～○
- ・膝折れ時々有～有
- ・方向転換×～△
- ・体幹前傾△～○

HUG

- ・上肢支持△
- ・膝折れ時々有～有
- ・方向転換×
- ・体幹前傾△～○

ミニリフト

- ・上肢支持×～△
- ・膝折れ時々有～有
- ・方向転換×
- ・体幹前傾×～△

高い

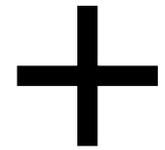
起立・立位能力

低い

PLAN(計画)：福祉用具一覧表等で管理

福祉用具の使用状況/物品確認												
高兵衛	褥瘡防止用具			移乗用具								
利用者氏名	スライ ディング ググ ローブ	スライ ディング グシー ト	スライ ディング ボード	ロール ボード	床・天井 走行式リ フト	スリング シート	スタンディングリフ		回転台	介助バー		
							hag	ミニリフト		ひざ たち	たち あっ	L字バー
1												○
2												
3												○
4												
5												
6		○			○	シハM						
7												
8												○
9												○
10												
11		○										
12												
13		○										○
14			○									
15	△	△	△									
16		○										
17												
18												
19		△										
20					△	脚ハM△						
21		○										○
22												○
23												
24	○	○										○
現在施設にある物品	全職員に配布	23	9	フレックス：1 サマリット：4	KQ787：4 カーリーナ：1 ※天井走行：2	脚ハM：9 脚ハL：4 シハM：13 シハL：4 スプレッター：3 延長スト ラップ：2 ※脚分線型(脚) シート型(シ) ハイバック(ハ) スプレッター(ス) 延長スト ラップ(脚)	2	2	1	ひざたち：2	片手すり：9	1F： 2F：22 ※1Fの物は 2Fと互換性 無し

使用が決定している用具の管理



ケアプランや各計画書に記載

DO(実行)：選定した福祉用具を使用



介助方法の見直し

入浴中の事故

簡易浴槽選択シート

スタート

著明な円背がなく、
上肢支持有り、
背もたれのみ
の座位で、
体が傾く事はない

いいえ



特浴

はい

立位で段差昇降
とまたぎ動作が
できる

いいえ



リフト浴

はい

家庭浴



※適用外の人に利用すると、
事故に繋がる

入浴用クッションの当て方

円背がある人



- ・軽度は1枚
- ・重度は2枚
- を画像のように横にして入れる

※頭がクッションにつくように枚数
や当て方を調整

座位で左右に崩れる人



- ・骨盤～背中^の左右に入れる

※浮きやすいため、入水に合わせて
微調整する

前滑りする人



- ・お尻～太もも裏に入れる
- ※便で汚れるため青いクッションは
足のみ使用

内股を防ぎたい人



- ・三角クッションか青いクッションを
足の間に入れる

入浴介助中の事故

特浴 リフター使用



1. 送迎

- ・居室用シートを敷いたまま



2. 浴室用ストレッチャーへ移乗

- シート：居室用シート
- リフト：浴室用リフト

ストレッチャーに入浴用シートを引く
その上にバスタオルをひく
※排便がある人は入浴用シートは引かない



3. 脱衣

- ・衣類と居室用シートをとる



4. ポジショニング



5. 洗身



6. 入浴

7. 出浴

- ・水分を拭き取る
- ・クッションは外す



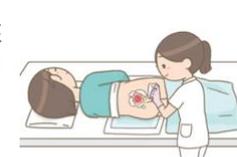
8. 移動

ストレッチャー位置：
浴室と脱衣所の境



9. ベッドへ移乗

シート：入浴用シート
リフト：脱衣所リフト



10. 更衣・処置

・入浴用スリングシートを外す
・処置後、更衣に合わせて居室
用シート装着



11. 車椅子へ移乗

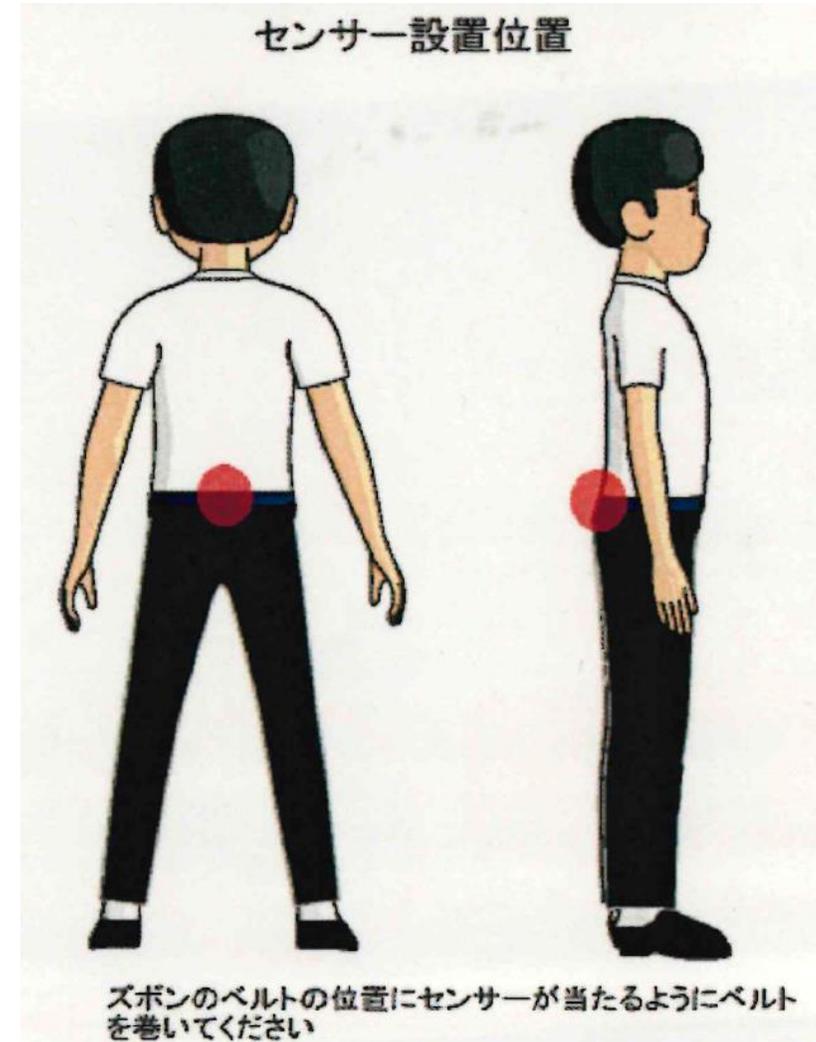
シート：居室用シート
リフト：脱衣所リフト

入浴用シートは装着したまま

測定：腰に負担のある動作

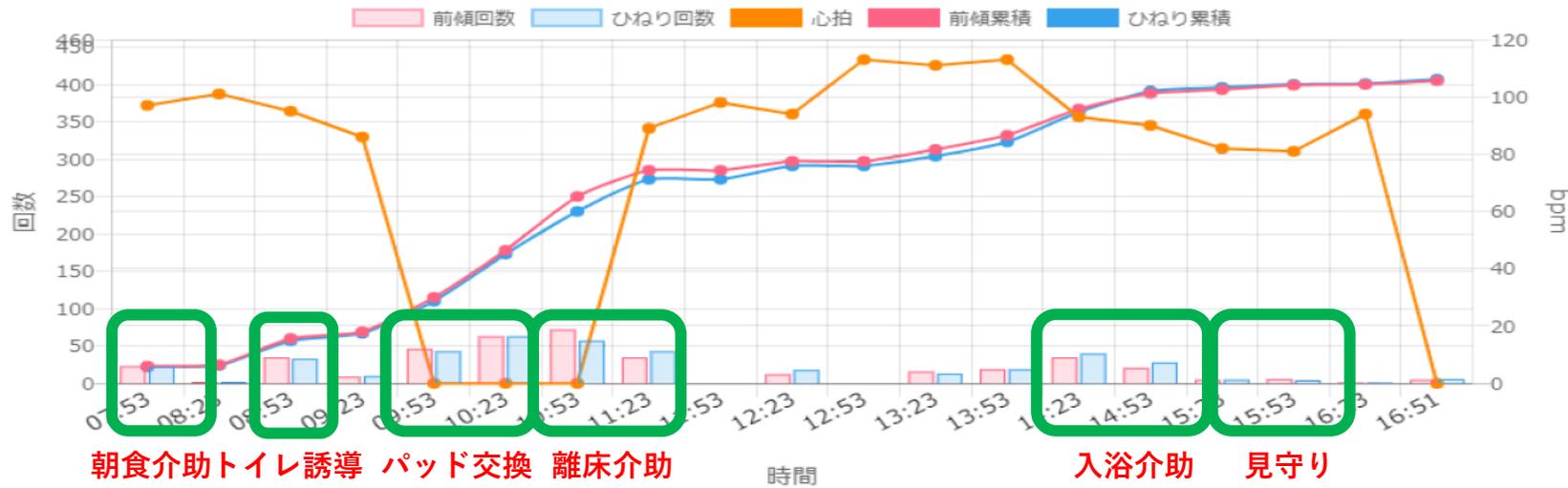
測定機器：Malpos Major(マルポスマジャー)

測定内容：体幹前傾と前傾中のひねり



結果：腰に負担のある動作(フロアリーダー)

測定日：令和3年8月



介助者データ比較



前傾合計時間
1時間28分

測定日：令和4年1月



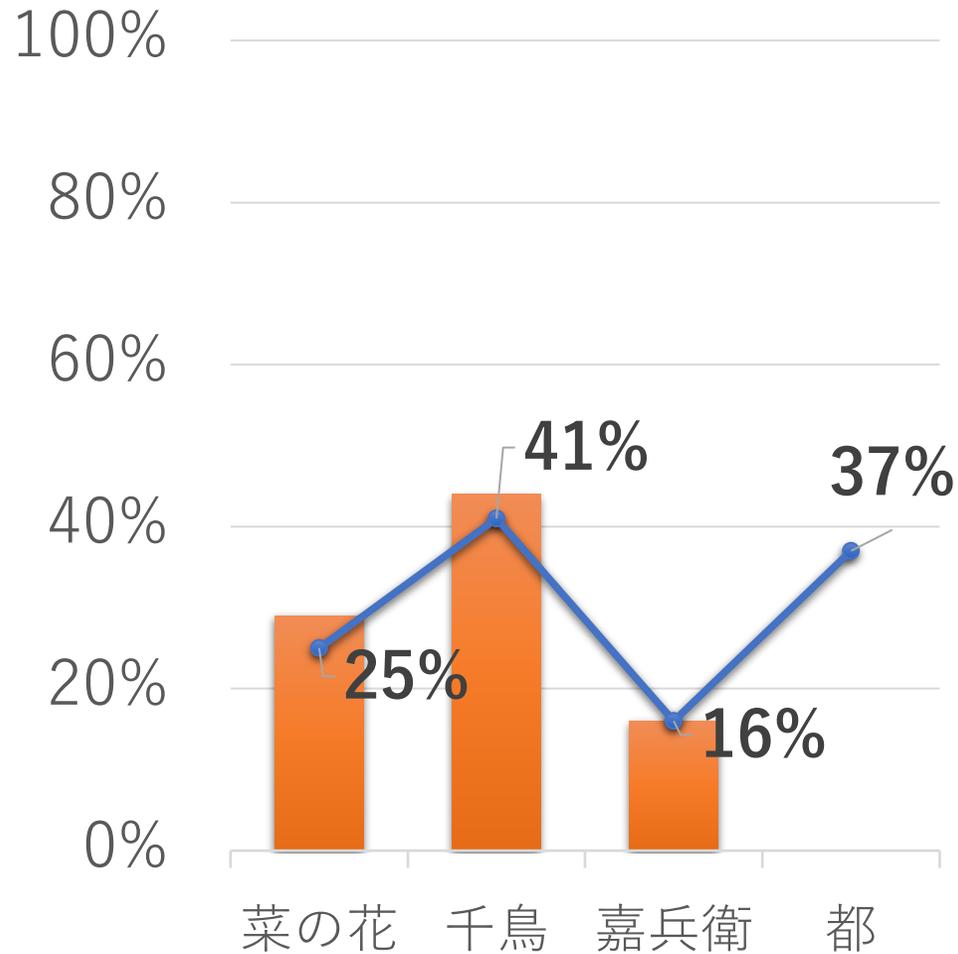
介助者データ比較



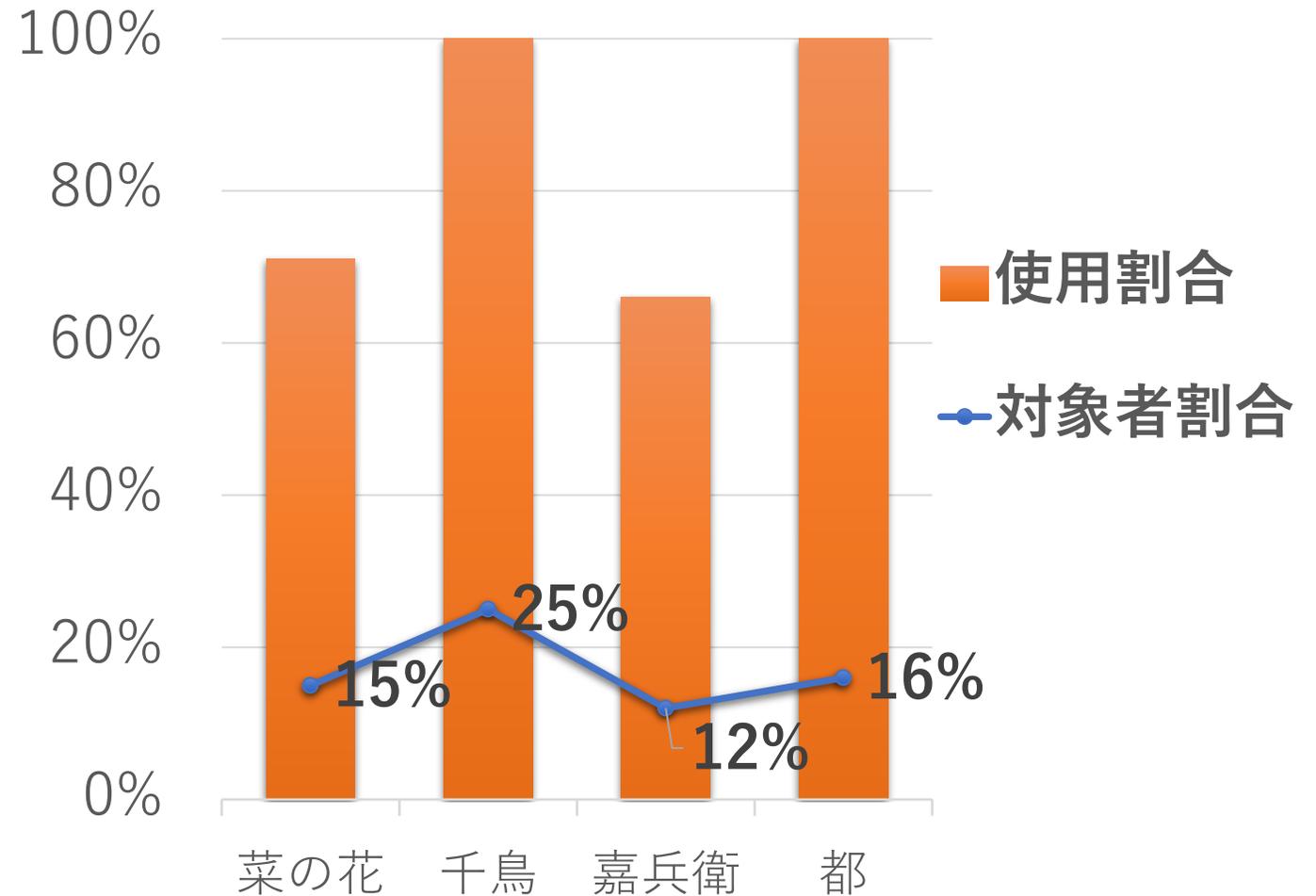
前傾合計時間
36分

結果：リフターの対象者割合と使用割合

令和3年8月時点

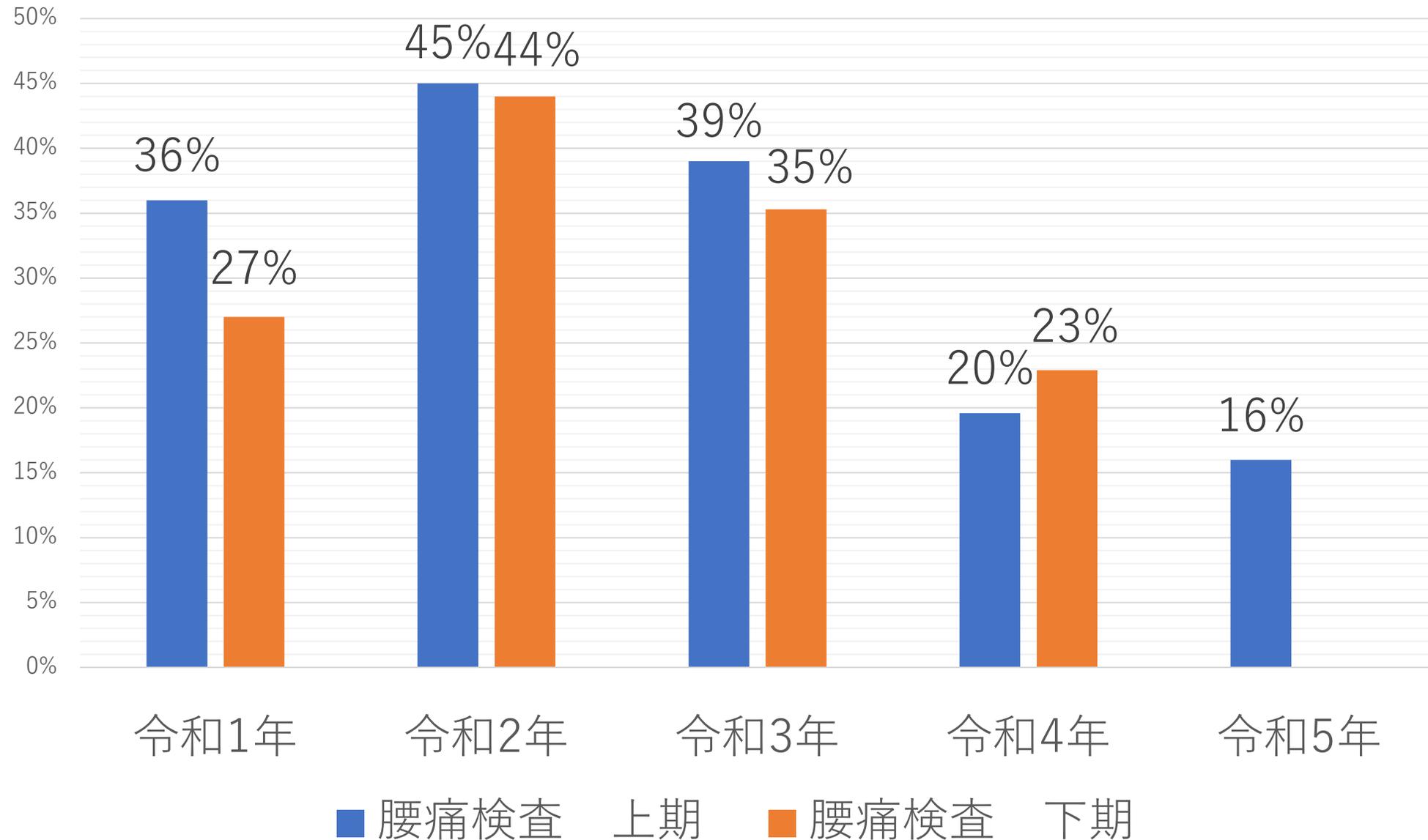


令和4年8月時点



結果：腰痛割合

腰痛検査を受けた五色・サルビアホール職員のうち、腰痛の訴えがある人の割合



結果：事故内訳(防ぐべき事故)

		平成30年度	令和1年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
介助中の事故	浴室	2人介助の移乗中に転倒し骨折	2人介助の移乗中に傷	2人介助の移乗中に転倒し骨折	入浴中に座位が崩れ横転	移乗介助で傷
		立位介助で転倒し骨折	リフト上昇中に足を挟み表皮剥離	移乗介助中にバルーン抜去	移乗介助で傷	リフト移乗の入浴後に表皮剥離
		更衣介助中に足の爪がはがれる	2人介助で更衣と移乗後に出血	2人介助の更衣後に出血		着衣介助中に転落
		更衣介助中に転落	入浴後、後頭部に皮下出血	特浴への移乗後に裂傷		
		2人介助の移乗後に表皮剥離				
		移乗介助後に出血				
		入浴中に座り直しを繰り返し傷				
	居室	移乗介助で骨折	起き上がり介助で骨折	移乗中に裂傷	トイレ誘導で居室を歩行中(見守り)に転倒	リフト移乗でフットレストに足をのせたまま着座 →後日不全骨折判明
		移乗中にフットサポートに引っかかり疼痛有り	移乗中に剥離 移乗準備中に転落	更衣中に壁に接触し傷 移乗中に表皮剥離		
			素足で移乗し指から出血	移乗準備中に目を離し転落		言葉かけの際に肩をたたき痣
				2人介助の移乗後に出血		
	トイレ	トイレ介助中にバルーン抜去	トイレ介助中に転倒	移乗中に転倒し裂傷	トイレ介助中に皮膚剥離	トイレ介助中に目を離し転倒
		トイレ介助中に膝折れがあり出血		トイレ介助後に皮下出血		

- ・ 2人介助移乗での事故はゼロ
- ・ リフターを本来の使い方ではない方法で使用したため事故が発生

考察

ノーリフティングケア

環境調整

体の使い方

リフター

リフト介助は人力介助に比べ体幹前傾が有意に減少(富岡.2008)

目指すべき介護は、リーダーや上司間で共有され組織としてシステムを作り、行動変容を進めることが肝要(川角.2020)

行動変容

- ・ 介助中の前傾回数と時間が減少
- ・ リフターの使用割合向上

腰痛割合減少・2人介助移乗の事故ゼロ

結語

- ・腰痛割合減少と2人介助移乗での事故ゼロが可能
- ・組織的な取り組みが不可欠
- ・新たな事故に対する対策が必要

利益相反（COI）の有無

- ・今回の発表に関連し開示すべきCOI関係にある企業等はありません